

資料

三重県における市町等地域保健担当職員を 対象とした情報専門職養成研修について

高橋裕明, 山内昭則, 福田美和, 松村義晴, 大熊和行

Training Program for Promoting Information Processing Ability for Regional Health Care Members of Municipalities and Health Centers in Mie Prefecture

Hiroaki TAKAHASHI, Akinori YAMAUCHI, Miwa FUKUTA,
Yoshiharu MATSUMURA, and Kazuyuki OHKUMA

2005年度より, 科学的根拠に基づいた地域保健行政への貢献を目的として, 市町や保健所等の職員が担当する種々の地域保健に係る情報処理課題について具体的な技術支援を行う中から, 課題解決, データ解析と取りまとめに必要な技術の習得を支援する研修を開始した。2005年度は10機関(15人), 2006年度は12機関(17人), 2007年度は5機関(15人)を対象として実施し, 毎年度, 受講者からは高い満足度が得られており, この方式による研修の継続要望が出されている。

キーワード: 地域保健, 情報専門職養成, 研修

はじめに

地域保健事業の推進には公衆衛生に関する疫学的な取組み, 即ち, 健康状態の広がりや動きを観察するために様々な調査を実施し, その調査結果を分析し, 分析結果に基づいて対策(行政施策)を立案する必要がある。しかしながら, 事業を推進する地域保健事業実施現場では, 疫学や統計学を踏まえた情報分析力が脆弱なところが多く, この強化が重要な課題となっている。

このことは, 第3次国民健康づくり運動「健康日本21」を踏まえた三重県独自の健康づくり計画である「ヘルシーピープルみえ・21」¹⁾を推進するためにも一層重要度を増していると思われる。2005年度より, 地域保健事業実施現場における情報分析力を強化し, 科学的根拠に基づいた事業推進に貢献することを目的とした研修を開始したので, その概要を報告する。

方法

2005年度より「情報専門職養成研修」として, 市町や保健所等の職員が担当する種々の地域保健に係る情報処理課題について具体的な技術支援を行う中から, 課題解決, データ解析と取りまとめに必要な技術の習得を支援する研修を開始した。

受講者が研修の中で習得した統計学的な考え方や情報処理技術を活用し, 自ら地域保健課題の解決に取り組む能力を向上させることを目標として以下のことを実施した。

1. 地域保健対策関連事業に係る情報処理テーマの募集

毎年度4月に, 健康福祉部健康づくり室から市町, 保健所等に主旨説明を含めた募集案内を配布し, 技術支援を必要とする地域保健対策関連事業に係る情報処理テーマを募集する。

2. 事業計画と希望する技術支援のヒアリング

毎年度5月初旬に, 健康づくり室職員とともに, 応募のあったテーマについて, その事業計画の概要と希望する技術支援の内容を聴き取り, 当該年度の対象テーマを選定する。

3. 研修の実施

- 1) 研修日程の決定
個々のテーマ毎に, 受講者と調整の上, 月1~2回程度の実施時期を決定する。
- 2) 研修(技術支援)方針の決定
ヒアリング結果を基に, 課題解決に向けて分析に必要な技術支援方針を決定する。

- 3) 課題解決に必要な基礎技術の習得
分析を実施するために必要な基礎技術の研修(データベースの作成方法、表計算ソフト、統計用ソフトの基礎的な使用方法²⁾)を行う。
- 4) 分析の実施
習得した技術を活用し、実際のデータを用いて分析を実施する。この過程で、Excelのピボットテーブルによるクロス集計手法、統計ソフトを用いた多重ロジスティックモデルによる交絡因子の調整手法³⁾を必修項目として取り入れている。

- 5) 結果の取りまとめ支援
分析結果の取りまとめ(希望があれば学会発表、論文投稿)について支援を行う。

結 果

2005年度から2007年度の研修実績を表1から表3に示した。
3ヶ年で27機関47人を対象として、32の課題に対応した。
対応したテーマの多くは、種々の地域課題に関する調査結果の解析であった。

表1. 2005年度情報専門職養成研修実施状況

番号	所属名	受講者	実施内容	受講者	研修日数	研修総量 (人・日)
1	桑名市	保健師1名	児童虐待防止に関するアンケートデータの解析評価	1	1.5	1.5
2	いなべ市	保健師、事務各1名	高齢者健康づくり訪問調査票の設計とデータ解析	2	1.5	3
3	伊勢市	保健師1名	喫煙と健康に関するアンケートデータの解析評価	1	3.5	3.5
4	熊野市	保健師1名	母子保健調査データの解析評価	1	3	3
5	御浜町	保健師1名	基本健康診査データの解析評価	1	2	2
6	四日市保健福祉部	保健師1名	親の喫煙行動と子どもに対する影響に関するアンケートデータの解析評価	1	1	1
7	津保健福祉部	管理栄養士2名	平成16年度県民栄養調査(国民栄養調査)データによる保健所管内の地域診断	2	8	16
		保健師1名	妊産婦メンタルヘルス向上システム構築事業(16年度実施調査結果の解析評価)	1	9	9
8	南勢志摩保健福祉部	医師1名	こころの健康づくりアンケートデータの解析評価	1	7.5	7.5
		保健師1名	運動・身体活動アンケートデータの解析評価	1	7.5	7.5
9	伊賀保健福祉部	保健師1名	老人保健施設等入所者を対象としたツ反検査結果とQF-TB検査結果の関連性の解析評価	1	2	2
10	紀北保健福祉部	管理栄養士、保健師各1名	小中学生と保護者の生活習慣と健康観に関するアンケートの実施と解析評価	2	10.5	21
合 計						77

表2. 2006年度情報専門職養成研修実施状況

番号	所属名	受講者	実施内容	受講者	研修日数	研修総量 (人・日)
1	いなべ市	保健師、事務各1名	高齢者健康づくり訪問調査結果のデータ解析評価	1	5	5
		保健師1名	母親のメンタルヘルス支援事業に係る調査設計と調査結果のデータ解析評価	1	3	3
2	津市	保健師1名	離乳食教室アンケートデータの解析評価	1	1.5	1.5
3	松阪市	保健師1名	松阪市母子保健調査データの解析評価	1	6.5	6.5
4	志摩市	保健師2名	志摩市健康意識調査結果のデータ解析評価	2	5	10
5	三重大学公衆衛生学講	医師1名	四日市喘息患者死亡統計データの解析評価	1	2	2
6	健康づくり室	管理栄養士1名	紀州地区における高齢者栄養状況調査アンケートのデータ解析評価	1	2	2
7	桑名保健福祉事務所	保健師、管理栄養士各1名	ヘルシーピープルそういん・21の職域連携に伴うモデル事業所従業員の生活習慣改善実態調査に係る調査設計とデータ解析評価	2	5.5	11
8	四日市保健福祉事務所	保健師1名	子どもの喫煙行動に関連する親の意識と家庭環境要因に係るデータ解析評価	1	7	7
9	津保健福祉事務所	保健師1名	妊産婦メンタルヘルス向上システム構築事業に係る17年度調査結果のデータ解析評価	1	3	3
10	伊勢保健福祉事務所	医師、保健師各1名	こころの健康づくり(自殺予防対策)アンケートデータの解析評価	1	3.5	3.5
		歯科医師1名	フッ化物ゲル歯面塗布法の乳歯う蝕予防効果に関するデータ解析評価	1	1	1
11	伊賀保健福祉事務所	保健師1名	老人保健施設等入所者を対象としたツ反検査結果とQF-TB検査結果の関連性の解析評価	1	2.5	2.5
		保健師1名	老人保健施設等入所者を対象としたQFT検査結果と既往歴・胸部X線写真読影結果との関連性等のデータ解析評価	1	2.5	2.5
12	紀北保健福祉事務所	保健師1名	小中学生と保護者の生活習慣と健康観に関するアンケートの解析評価と取りまとめ	1	0.5	0.5
合 計						61

表3. 2007年度情報専門職養成研修実施状況

番号	所属名	受講者	実施内容	受講者	研修日数	研修総量 (人・日)
1	志摩市	保健師2名	志摩市健康意識調査結果の解析評価	2	1.5	3
2	いなべ市	保健師3名	母親のメンタルヘルス支援事業に係る調査結果の解析評価	3	3	9
3	桑名保健所	保健師、放射線技師 各1名	モデル事業所における健康支援事業に関する調査結果の解析評価	2	1.5	3
4	健康づくり室	管理栄養士6名	健康増進計画策定に伴うメタボリックシンドローム指標づくり	6	4	24
5	こころの健康センター	保健師1名、他1名	モデル事業所における職業性ストレス調査結果の解析評価	2	1.5	3
合 計						42

考 察

地域保健行政推進のため実施される調査，これには例えば国勢調査や人口動態調査，国民栄養調査といった大規模なものから県や市町等の地域保健に対応する現場自らが実施する小規模なものまで様々な調査があるが，その調査結果は分析され，必要があれば他と比較して，現状の把握と問題点の確認，問題があればその原因分析，あるいは将来の姿の予測などが行われてようやく有用なものとなる。

しかしながら，現在の地域保健の現場において，そういった様々な調査の結果が十分に分析され，現状把握がなされるとともに，分析された結果が，それまでの施策の効果判定や新しい施策展開に活用されているかと考えると，いささか疑問といわざるを得ない。その原因の大きな要素として考えられるものに，地域保健現場における「情報分析力の弱さ」が挙げられる。これは，単に「パソコンや表計算ソフトの習熟度が低い」といったことのみでなく，疫学や統計学を踏まえた調査の設計能力や，調査結果を分析するためのデータベース作成能力などが含まれ，地域保健行政の推進には，担当する職員に対する，こういった能力の強化は，極めて重要な課題といえる。このようなことから，国立保健医療科学院では「地域保健支援のための保健情報処理技術研修」をはじめとする有用な研修が用意されているが，地域保健現場には予算，マンパワーの面でそれらの研修に職員を派遣するだけの余裕がないところが多く，手近なところで，能力強化につながる研修の実施が求められている。

こうした背景から，当研究所では，2004年度まで「健康福祉部健康づくり室が主催する講義・プレゼンテーション方式の短期の情報処理研修」に協力してきた。これは，三重大学大学院医学系研究科の先生方とともに講師として参加し実施した研修であったが，この方式では，知識やパソコンの習熟度等に差がある受講者の

様々なニーズに応じて実務に活かせるレベルの研修とするには至らず，参加者の高い満足度は得られなかった。

そこで，当研究所から健康づくり室に提案して，2005年度から「情報専門職養成研修」を開始した。この研修は，「健康福祉部健康づくり室が市町や保健所等に主旨説明を含めた募集案内を配布し，応募のあった市町職員や保健所職員が担当する地域保健対策事業に係る情報処理テーマに具体的に対応することを通じて，課題の解決，データ解析，取りまとめに必要な技術の習得を支援する」方式で行っており，毎年度，受講者からは高い満足度が得られ，この方式による研修の継続要望が出されている。

その要望に応じて本事業は継続すべきと考えているが，この研修をより有効なものとするためには，「実際の地域保健課題への対応経験が豊かな職員の当研究所への配属」も必要である。経験に裏打ちされた研修（技術支援）実施体制を構築することで，一層的確に，地域保健行政の推進に貢献できるものとする。

文 献

- 1) 三重県健康福祉部：三重の健康づくり総合計画ヘルシーピープルみえ・21年次報告書，2001年版～2006年版。
- 2) 高木廣文：HALBAU7によるデータ解析マニュアル，シミック株式会社（2007）
- 3) 重松逸造，柳川洋，秋葉澄伯 他：新しい疫学，225-239，日本公衆衛生協会（1994）